

おなん淵

滝つぼにある、この深い淵には、おなんという若い下女の名前が付いています。おなんは、昔、この地域に住んでいた裕福な男のもとで奉公をしていました。おなんはとても働き者で、まじめな下女でしたが、ある日、主人がとても大事にしているお膳を誤って落とし、割ってしまいました。主人はひどく叱り、その後、おなんは恥じて崖から身投げをしました。言い伝えによると、地元の人々は、ある一定の数のお膳を貸してくださいと書いた紙を滝に送ると、翌日には頼んだものと同じ数のお膳が下流に浮かび、使わせてくれることが分かりました。しかし、ある日、半分返さなかったことがあり、それ以来、頼みを聞いてもらえなくなりました。おなんのものと言われるお膳の1つが、東桂の宝鏡寺に保管されています。

おなん淵は鹿留川流域にあります。御正体山付近の水源から約6キロに渡って流れ、最後は桂川に合流しています。この淵からそれほど遠くない下流には、蒼竜峡があります。川の一部では、青い水が狭い火山の溪谷を曲がりくねって流れ、まるで青い竜のように見えます。